

第9回インフラツーリズム有識者懇談会

令和4年9月21日

【清水座長】 議事に入りたいと思います。まず今日は、各モデル地区の進捗状況と今後の進め方について、それから拡大の手引きの骨子案につきましてご議論いただく予定にしております。初めに前回までの議論の概要について事務局から説明をお願いいたします。

【観光・地域づくり事業調整官】 事務局の武田といいます。よろしくお願いたします。それでは資料に沿って説明させていただきます。まず資料の4ページになります。懇談会の開催経緯ということで、第1回から第8回まで並んでおります。平成30年に第1回懇談会を開催しまして、進めてまいりました。令和元年度の懇談会において、モデル地区5ヶ所を選定。続いて令和2年8月の第6回懇談会でモデル地区2ヶ所を追加選定していただき、各モデル地区における取り組みについて、ご意見をいただいております。このモデル地区での取り組みについては、今年度で3年目・4年目の取り組みとなっております。

続きまして5ページのモデル地区の概要です。鳴子ダム、ハッ場ダム、天ヶ瀬ダム、来島海峡大橋、鶴田ダム、白鳥大橋、日下川新規放水路の全部で7ヶ所の地区がモデル地区となっております。

続きまして6ページになります。モデル地区での取り組みも踏まえた第8回の議論です。前回の主なご意見は、各地域の進捗、状況等を考慮しつつ、ガイド内容や販売体制について検討を行う必要がある、地域それぞれのも目指すべき状況の見直しが必要、自走はあくまで手段の一つであり、インフラツーリズム取り組みや波及効果をどう地域に広げていくのかが課題などの意見をいただきました。手引きにつきましては、必要な取り組み事項について各地区によって状況が異なるため、フロー図ではなくチェックリストで整理すべき、手引きのターゲットが施設管理者であるため、冒頭で「インフラツーリズムとは何か」事業全体のイメージを把握できる部分を入れる必要がある、とのご意見をいただいております。以上が前回の議論の内容です。以上です。

【清水座長】 ありがとうございます。前回までの内容ですので、特にご注意、ご確認いただきたい点がなければ次に進める形でもよろしいでしょうか。続きまして、各モデル地区の進捗状況と今後の予定について、事務局からご説明よろしくお願いたします。

【観光・地域づくり事業調整官】 続きまして資料の7ページです。各モデル地区の進捗状況についてご説明申し上げます。

まず8ページです。昨年度の懇談会は9月に行っておりますが、そこを含めて昨年度の1年間の動きです。各地区で協議会と現地検討会ということで、活用方法や役割等の検討を重

ねてまいりましたが、コロナの緊急事態宣言が 9 月末まで延長されたということもあり、本格的な取り組みは 10 月以降となっております。天ヶ瀬ダム、白鳥大橋については、モニターツアーを実施しております。また、来島海峡大橋は、モデル事業者によるツアーの実施、鳴子ダムは地域におけるツアー実施、白鳥大橋では登頂クルーズの運航が始まりました。なお、鶴田ダムに関しましては 7 月に災害を受けたため、災害対応を優先しております。

続きまして 9 ページになります。今年度 R4 年度の上半期と下半期の予定です。春先より各モデル地区で打ち合わせ等を行いながら、コンテンツの検討、ツアー運営の体制の構築、ツアーの実施までの調整を行う予定で進んでおります。

続きまして 10 ページです。今年度の予定をまとめたものです。天ヶ瀬ダム、鶴田ダム、日下川新規放水路については、現地打ち合わせや協議会等を開催しながら、コンテンツ検討、ツアー運営の体制構築を目指します。来島海峡大橋につきましては、本年度も引き続きモデル事業者によるツアーを実施し、今後の体制について検討していきます。地域によるツアーの実施となっている鳴子ダム、白鳥大橋につきましては、ツアー実施の課題等を踏まえてさらなる検討、支援を行う予定です。ハッ場ダムについては、地域による自走が始まっているということで状況等をいただくという形にしたいと考えています。それでは個別の進捗状況と今後の予定についてご説明いたします。

11 ページから天ヶ瀬ダムについてご説明いたします。11 ページの資料の中段にスケジュール表があります。これまでモニターツアーを行い、その検証を含め、地域の仕組みや現状と相性の良いコンテンツ、ターゲットの設定の検討を行ってきました。今後につきましては、これまで宇治市地域の観光発展検討会において検討してきましたが、より具体的な議論ができる関係者を絞った協議会の立ち上げを目指す予定です。また、ダム周辺の整備状況に合わせたコンテンツ等の造成、ターゲット設定や商品バリエーションに合わせたプロモーション戦略の方針の検討を行う予定です。

12 ページです。昨年度行いました事業者向けのモニターツアーの結果です。令和 3 年 11 月 5 日と 6 日に行いましたモニターツアーでいただいた意見が、次の 13 ページです。主な意見としましては、ターゲットは教育旅行向けに宇治市内のコンテンツと組み合わせで対応する形、との意見をいただきました。商品の方向性については、インフラ施設の説明部分をターゲットとする年齢層等に合わせる必要がある。また、座学的な事前説明は最小限にとどめるのが良い、との意見をいただきました。また受け入れ体制、環境整備についても参考とする意見が出されております。

次の 14 ページが今後の予定です。現在宇治市に周辺の整備の計画がありますので、ダム周辺整備状況と合わせたコンテンツの造成等を予定しております。

15 ページが、今後の予定です。コンテンツの検討、整理を、関係者打ち合わせを進めながら、コンテンツ等の完成を目指します。併せて、地域におけるツアー運営体制の構築に向け、協議会の立ち上げを目指したいと考えています。以上が天ヶ瀬ダムのスケジュールです。

続いて 16 ページになります。鶴田ダムです。中段のスケジュール表にあります通り、今年の

7 月豪雨により、鶴田ダムおよび周辺施設が被災したということもありまして、災害対応を優先しまして、現在の検討は一時中止しております。今後はガイドの育成、配置、周辺観光資源との連携、ターゲット設定やプロモーション戦略の方針など運営体制の構築を検討していくこととしております。

17 ページです。ここまで鶴田ダムを含めた現地では、様々なツアー商品の提案を考えております。鶴田ダムと周辺地域の観光資源を巻き込んだ個人向け・団体向けツアーというバリエーションです。今後現地において内容を精査しながら、調整していきたいと考えております。

次の 18 ページでは今後の進め方です。昨年度現地では休止しておりましたので、これまで検討してきた内容を共有しながら、コンテンツ造成や方向性の取りまとめを行いたいと考えています。併せて、地域におけるツアー運営体制の構築に向け、協議会等の立ち上げを目指していきたいと考えております。以上が鶴田ダムです。

続きまして、日下川新規放水路です。19 ページになります。日下川新規放水路につきましては、施設の特性を生かした活用方法、周辺観光資源と連携したストーリーが実施に向けた運営体制の検討ということを行ってきました。今年度の 8 月にはスケジュール表の通り、ガイド研修を行いました。今後はツアー販売に向けた運営体制の構築を目指しながら、教育旅行向けコンテンツの検討、ガイドの質向上の検討を行うことを考えております。

次の 20 ページになります。先月行いましたガイド研修についての概要です。8 月 30 日に実施しました現地の工事状況の現場視察を行い、その後ワークショップ形式の意見交換を行いました。

その意見交換の概要が次のページの 21 ページです。意見の概要ですが、インフラ施設の説明を全て現場で行うよりも、事前に動画等で全体的なシステムを行うべき、教育旅行向けコンテンツのメインテーマを定めるべき、という意見が提言されております。

次の 22 ページになります。今後の進め方です。日下川新規放水路はまもなく完成間近と聞いております。そのため、整備の進捗状況に合わせた事業実施スケジュールを作成しています。さらに教育旅行向けコンテンツの検討を行いながら、地域における運営体制の構築の検討を行っております。以上が日下川新規放水路です。

23 ページになります。来島海峡大橋です。中段のスケジュール表にありますが、民間事業者による広報を行い、モデルツアーの実施を昨年度行いました。同様に今年度も行うことで進めております。今後実施したモデル事業の課題等を整理し、運営委託の検討を実施していきたいと考えております。

次の 24 ページになります。実際に昨年のモデル事業ということで実施した結果になります。モデル事業者により、10 月 15 日から 11 月 30 日にかけてツアーの販売を行っております。実際のツアー実施日数は 9 日、ツアー本数は 20 本という結果でした。いずれも、催行率は 4 割以下という結果でしたが、この結果については、緊急事態宣言が 9 月 30 日まで発令されていまして、プロモーションやツアー開始時期を変更したことが大きく影響を及ぼしたのではないかと見ております。

25 ページになります。モデル事業で実施したツアーの概要です。昨年度 4 つ計画したツアーのうち基本プランである、主塔登頂体験と潮流観測のツアーと、もう一つ、桁外面作業車とバーベキューツアーの 2 プラン実施しました。

続きまして、26 ページです。今後の進め方になります。今年度もモデル事業者によるツアーを実施し、モデル事業の検証、地域での主体的な運営に向けた検討を実施していくことで進めたいと考えております。以上が来島海峡大橋です。

続きまして 27 ページになります。鳴子ダム状況です。鳴子ダムにつきましては、これまで協議会と、定員 1 組限定の高単価ツアー、団体バスツアーという形でモデルツアーの実施検討を行ってきました。中段のスケジュール表にありますが、昨年度からはみやぎ大崎観光公社によるツアーの販売が開始されております。今後は昨年度までの結果を踏まえまして、ボート運行の民間委託、紅葉以外のツアーやストーリーの検討、ターゲット設定を変えたコンテンツ・商品内容の検討を考えております。

28 ページです。昨年度実施しましたツアーの内容です。28 ページは、昨年の秋の紅葉シーズンにウォーキングやダム見学ツアーを開催しております。29 ページは、昨年の冬に実施しました 1 日 1 組限定の高単価高付加価値プランのツアーです。さらに 30 ページです。親子での見学ツアー、右側が今年度、秋に実施予定のツアーです。

最後に 31 ページになります。鳴子ダムの今後の進め方です。今後地域の事業者と連携したさらなる商品内容の検討など、商品バリエーションプランの検討を行い、関係者による実践方針の共有を行いながら、更なる向上のための検証を行う予定です。以上が鳴子ダムです。

続きまして白鳥大橋が 32 ページからになります。中段のスケジュール表にありますが、令和 3 年 7 月からスターマリンによる主塔登頂クルーズの運行が開始されております。また、昨年 10 月にはモニターツアーを実施しております。

33 ページは昨年実施しました事業者向けモニターツアーの意見概要です。主な意見ということで、旅行期間中に予約する方が多い、宿泊事業者側で案内してもらうのが良いのではないか、登別温泉の宿泊客への販売が想定できるのではないかと、クルーズ全体としては、ストーリー性やテーマ性があれば良いと思う、といったツアーの今後の意見や、さらにはクルーズ船の設備関係にも意見をいただいております。

次の 34 ページです。34 ページは昨年度一般向けに行ったモニターツアーです。10 月 16 日・17 日に行っております。当初は 8 月に予定しておりましたが、緊急事態宣言により 10 月に延期となりました。室蘭街歩き、あとはボルタ工房模型体験ツアーというのを組み合わせたツアーを行っております。

35 ページはスターマリンによる主塔登頂クルーズの内容です。運行期間は 4 月～11 月で HP に出しております、5 名以上の申し込みが標準プランですが、5 名以下の運行、または団体での運行も対応しております。

36 ページ、今後の予定です。スターマリンによる主塔登頂クルーズを主体にしながら、継続して今後のツアー商品のバリエーション化ということの検討を行っていく予定で更に磨き上げを

行うことで考えております。以上が白鳥大橋です。

それでは最後になりますが、ハッ場ダムについてご報告という形でご説明申し上げます。37ページになります。ハッ場ダムについては令和元年度に完成して、令和2年度から地域が主体となって様々な取り組みを行っております。下の方に表がありますが、令和2年7月から一般開放しているハッ場ダムのダム堤体には連日多くの観光客が訪れており、累計で令和2年8月時点で約54万人が来訪となっております。

次の38ページになります。ハッ場ダム周辺で行っている様々な取り組みです。令和2年度より水陸両用バス、バンジージャンプ、カヌー・カヤック等の湖面利用が開始されました。令和3年3月には河川空間のオープン化に伴い、ダムサイトでのキッチンカー販売や日本酒の貯蔵が開始されました。また、令和4年1月より観光船が運行開始ということで現在様々な取り組みが動いております。以上が、ここまで各モデル地区の状況と今後の予定です。ご説明を終わります。

【清水座長】 ありがとうございます。まずは各モデル地区の取り組みの内容と今後の予定についてご説明いただきました。しばらく質疑の時間にしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【篠原委員】 ご説明ありがとうございました。ちょうどこのインフラツーリズムが言われてから、7年経つのかと思います。当時のメンバー、国側のメンバーの皆さん、そして今回傍聴をしている現場の皆さんも、メンバー全て変わってしまっていて、もう1回原点に帰ってお話をさせていただこうと思っています。7年程前の話ですが、観光立国を目指すということで、安倍政権と菅官房長官が観光に非常に力を入れようという話になり、明日の日本を支える観光ビジョン、この中の柱の一つとして公共インフラを観光資源にしていこうじゃないかと。その日本の観光のコンテンツの幅が非常に狭いと。そのいろいろな可能性を、特に国交省の管轄も多かったのですが、それをしっかりとやっけていこうという中で、公共事業企画調整課でご担当されて動こうという話で、結構引き締まった形で進んでいました。そのときのお話ですが、こちらの39ページの確認を皆さんとしたいと思いますが、今まで公共のインフラというのは、一番左の土木広報というのか、社会科見学のような形で動いていまして、これが当時でした。それをちょうどハッ場ダムの完成の2年前でしたが、私の方に国交省の河川事務所からご相談いただいて、2年間かけて完成までガンガンやりました。いろんなドラマがありましたが、何のためにこの観光振興をそれぞれ実施するのかということです。これは経験から言うと、何のために国交省がこの委員会を作って、観光振興をインフラでやるのかの根本的な確認をしないまま、作業的にガイドの養成や教本を作ろうという話に傾いてしまっていると思います。こちらの39ページの真ん中の表にあるようにそれぞれの価値を上げていき、そして一番右側は、地域資源とダムを繋げて、まさに観光振興に持ってこうという形でした。もう一回、我々委員もそうですし、公共事業企画調整課の皆さんももう一回、そこで確認をするべきだと感じます。3年前からコロナになってしまって、いろいろな取り組みがあったけど、みんな中途半端に終わってしまった。これも

現実で致し方ない部分なのですが、もう一度原点を考えていかななくてはならないだろうと考えております。今思い出しましたが、国交省のこの会議で話をしたのが、激甚化している災害になるとダム反対の意見や、インフラ工事についての批判がありました。今がチャンスだろうという話になったと思います。やはり激甚災害等を防止するためには、このくらい公共インフラをしっかりと認めていくということです。当初の委員会ではチャンスだと。観光を通じて、国交省のインフラの公共事業が大事だということをやっ払い、これも一つの目的だと思いますけど、あとはマネタイズですね。国交省の皆さんが少ない要員の中で一生懸命見学会を開いていたが、一番お客様が来ていただく土日はやっぱり要員が回らないから閉まってしまう。これを民間に委託してガイドの仕組みを作り、高付加価値で人件費に繋げていき観光資源にしよう、ということだと思います。だからもう一回、お金を回していかない限り、我々が目指しているインフラ観光は成立しないんだということ、個別の案件を議論する前に、整理をした方がよろしいかなと思いましたが、ご提言を申し上げたいと思います。

【清水座長】 ありがとうございます。私が冒頭に挨拶した内容をもう少し詳細に考慮していただいたということかなと、私自身は感じています。その意味で、私も同じ思いですが、いかがですか。ご指摘の点についてチームが少しずつ変わっていく中で、どういう整理をしてきたかお答えいただければと思います。

【観光・地域づくり事業調整官】 事務局から簡単にご説明いたします。篠原委員がおっしゃる通り、最初の目標ということで、原点に帰る必要があって、整理をしなければならないことは我々も認識しております。懇談会の中の過程で、どのやって広めていくかということでモデル地区を選定して、モデル地区の中のノウハウを今後全国的に広めるということも含めてやってみようという社会実験的な動きということで始まりました。その前段の整理で、先生がおっしゃる通り 39 ページの広報から地域の資源、地域活性化にという右の流れに向かってやっていくんだ、ということ一度オーソライズされておまして、後にご説明いたしますが、最初の手引きの中にこれが入っており、これが大前提で、地域活性化にインフラツーリズムを持っていくんだと、地域のためにお金を落としてもらい、地域活性化のための施策としてやっていこうというところが一番最初の大きい目標で、その過程においてモデル地区で社会実験をやって広めてはどうか、というご意見がございましたので、モデル地区の状況の説明という形で前段特化してしまいました。次の議題の際に今後のお話も含めて、39 ページは用意しております。後でご説明したいと思っています。

【篠原委員】 今日は観光庁の観光地域振興課の課長もお越しいただいているわけですが、まさに広域で、こうした観光資源を核に、どうやって地域にお金を落としてもらおうかということ、DMO を含めましてです。河南課長はご担当でおられますから、観光庁との連携も再度しっかりしていかななくてはならないと思います。もう一つ、道路交通、あとは水の方の関係のセ

クシヨンの皆様も結構個別で、こうした観光振興の取り組みをされてらっしゃる部分があります。我々の動きをちゃんとその原局にちゃんと伝えてはいると思いますけど、認識を深くしながら、繋がっていかないといけないことだと思います。やっぱり原局が推進するってということで一緒に振ってもらわないと。現場の方からいろいろ長くやっていると仲良くなるものですから、いろんな話を聞くと、道路局でいろんなことを頑張ってインフラツーリズムをやろうと思っても評価が実際ところ繋がるのかってというような中の生々しい話もあります。水の方も一生懸命頑張るんですけども。ですから、国交省さんの評価の仕組み、一生懸命やったところが頑張ろうと思える仕組みですか、その辺も大事なところになってきますね。人事評価もやはり、その辺は整理が難しい問題だと思いますが、ちゃんと整理をしていかないと本来の結果が出てこないんだろうな、というふうに感じます。

【清水座長】 全体の話は、次の議題なので、必要なことはそちらでお願いします。とりあえず、各事業のところでは何か気になることがあれば。

【河野委員】 10 ページをサンプルにさせていただきます。1 回当初目的に立ち返って、立ち返ってというかずれているわけではないはずなのですけれども、それを踏まえた上で、このモデル地区というものがどういう位置付けなのかっていうことをあわせて整理していく必要があると思っています。この事業自体の予算減も想定されている状態の中で、モデル地区が、今はもう自走している超ド級エリートを除き、今後自走できそうな A 級のいくつかの資源に限定されていて、そこで成功事例を作って横展開していくという話でスタートしたものの、現時点では日下川を除いて、ある程度規模感が大きくて、アクセス環境や周辺観光地が一定程度あるようなところが中心です。中小規模の施設においては、これらの事例を参考にできないと思う方々もいると思いますし、うちの施設も困りごとがあってツーリズムを強化していくために相談したいんだけど、前モデル地区が上に詰まっているからまだ順番が来なくて相談できない、みたいな地域の方もおいでになられると思います。予算の縛りがある中で、今の時点でその先々のビジョンというのは全て示すことは難しいとは思いますが、例えばハッ場ダムを筆頭に、現時点で地域によるツアーが定期実施されているところに関してはこれを卒業とみなし、事務局は支援というよりは報告いただいたりアドバイザーする程度にとどめ、次の準卒業がどの施設で、次の年度の卒業を見据えましょうというグループと、日下川のようにまだ工事中で腰を据えてもうちよっと一緒にやりましょうねってところのレイヤーを明確にしたいです。そして、卒業してくれた空いたところに新しいモデル地区を入れていくという新陳代謝が必要だと思っています。どの事業においても、国が力を入れて推進していった横展開しようっていうときに一番重要なのが、スタートアップを支援するということだと思います。自力ではできないところ、スタートアップからある程度、もうちよっとしたら形になりそうだっていうところが、我々支援する側としてもやる気が一番出るとこなんですけど、その前の段階がおそらく最も労力が必要なフェーズなので、そのあたりの考え方といいますか、力の計算のかけ方みたいなところを併せて整理をしていく

ことができるという事です。当初のモデル地区がダムと橋に偏っていたり、一定程度の規模がある施設が中心だったところを、種類も広げていけるとか、小規模なビジネスモデルでマネタイズするスモールビジネスのような事例なども新たにモデルとして示していくような多様性を出していくということが、次の年度からもしかして必要なのではないかなと思っています。

【清水座長】 ありがとうございます。この点について、いかがですか。

【観光・地域づくり事業調整官】 ありがとうございます。河野委員のおっしゃる通りでございます。予算も限られている中ですので、我々としてバックアップできる体制が今、出来ていないのは認識しております。この後に、今後のスケジュール、今後の予定ということで、ご説明したいと思っておりますので、そこも含めてまた後ほど説明したいと思っております。ありがとうございます。

【篠原委員】 5 ページを開いていただいて、私が担当させていただいたのがですね、4 番の来島海峡大橋、そして6 番の白鳥大橋、鶴田ダムという形です。ハッ場はある程度の形はできまして、まだまだ課題は実際ありますが、動いているというような形になります。さっき河野委員からもお話があったように、何をもちえて卒業になるかということですね、ここを明確にしないと、コロナがあつて3 年も進まなかったこともあるのですが、しっかりとそのゴールを見極めて卒業させていかないと、新しい案件もちゃんと育ててあげられないのではと思います。卒業イコール我々有識者の方がタッチしなくなるという話ではなくてですね、しっかりフォローアップをしながら体制を作って差し上げて、どんどん繋げていくことになるのではないかと思います。一つの目処として目指すべきゴールは、これをやることによって国交省としてどういうメリットがあるのか。さっきの話もそうですけど、地域の方の観光はですね、この施設を見ることによって、お客様が本当に来なくなる素材に展開できているか、この辺を残された来年の春までの間に、1 件 1 件を正確に、処方箋を書いていかないといけないと思います。今はぼやっとしています。どこが出口かわからないけど、事務局も一生懸命やっただいてはいるんですが、一つ一つの課題を今何から手掛けていくのかという処方箋をしっかり書いていく。これで卒業していただくようにしていかなければならないと思います。

【河野委員】 少し補足しますが、最近では DMO や日本遺産など、認定の取り消しも視野に入れながら、計画通り進んでいるかどうかを検証する流れが一般化しつつあります。お墨付きをもらって資金を支援してもらったり、第三者評価を得るために認定してもらったりがゴールみたいになってしまうケースはあります。モデル地区になったことによって、頼る癖のようなものが生まれてしまうリスクはがあることは否定できません。いつまでたっても卒業が見据えられない施設が今後発生する可能性ということも視野に入れて、支援できるモデル地区の数や範囲を拡大していくにあたっては、それらの取り扱いについても予め考えておく必要があります。

【篠原委員】 スタートそれから申し上げたようにこれを頑張ってみんなでやったらこういうような未来もあるよね、観光でもお客様が広域で増えていく素材だよっていう確認を再度、それぞれの出ている案件の原点に帰って、ちゃんと整理をしていかないと、地方整備局も、そして現場の皆さんもですね、何か一生懸命やっているけど、何のためにやるんですかっていうと、地方創生ですって言うんです。観光振興って言うんですけど、具体的にこれをやることによって、誰がどのように潤っていくのか、誰が具体的にお金として回せていけるのかっていうことまで理解をしないと、何かお役所仕事みたいにやっていくっていうことになっていますので。そんなようなことを感じております。

【清水座長】 私も今までの議論に関係したことなのですが、トータルで見るとこれを何のためにやっているのかが本当に曖昧模糊としたまま来ているということだと思います。これを行っているのは、やはり公共事業を管轄しているセクションなので、多分単純にその観光振興としての目標だけではなくて、その他のインフラ管理上の政策に対する目標みたいなものもあると思うのですよね。そのどちらがというのがわからないのですかね。むしろインフラ管理としての目標がはっきりしていれば、それは一つの形であるかもしれないし、観光なら観光で、どこまでインフラサイドが協力していけるかということだし、そこがまだどちらが軸なのかがよくわからないのが問題と思っています。ただ、39 ページですかね、これを見ると一応インフラ管理ということの本分にしながら、どちらかというとその地域の観光振興の方に軸足を置くようなスタンスに立っているんで、やはりこの事業の評価はそちら側で見るべきと思うのです。そのときに、例えば 10 ページの表を見たときに、何を自走と言うは置いておいて、例えば、鳴子と白鳥は民間が自走して動いている。そうなれば卒業が近いのか。それとも何か動いているのだけでも、全然目的からずれている、という状況だと、それはそれで何か動いているかもしれないけど目標を見失って動いているだけで、本当の意味で自走と言えないのではないかと思うわけです。例えば、いろんな地域で教育旅行が出てくるのですが、本当にそれでいいのか。教育旅行は多分そんなに波及効果がないですし、それから教育旅行そのものとしてももっと工夫が要るわけですよね。単に見据えている先が教育旅行じゃないわけなので。教育旅行なら教育旅行なりのロジックというのですかね、単に学生さんを受け入れて来てもらっただけじゃなくて、その結果、学生さんの今後の人生にとって何がいいのかということの方が教育旅行だと捉えられるわけなので、そういうところの認識が甘いままで、とりあえず実態としては教育がやりやすい。コロナという事情もあるかもしれないけれども、教育旅行に飛びついている地域が非常に多いのではと思うのです。教育旅行がたくさん出てくるというところが、39 ページの図をきちんと理解してないんじゃないか、ということの証左と私自身は感じるのですよね。例えば私が関わった鳴子ですが、ものになるかどうかよくわからないけども、高付加価値ツアーを入れてもらっているわけです。1 組限定かもしれないけど、その人が何万も出していただくということと、あとはその地域にお泊りになっている方を連れてくるのではないかと、こういう意味で地域に別のお金が落ちて

いくのです。それがバスで低い単価で仙台から集めてくるというのは話が違うわけですよ。こういう商品ばかりになってしまうと、長い目で見ると全然鳴子に金が落ちてこない。それはちょっと違うんじゃないか、というふうに思いましたので、私が頑張って高付加価値を入れるようお願いしたと思うのです。各地区で、インフラを見せるということだけではなくて、先を見据えて何かやっていることが見えてこない、自走にならないのです。

【篠原委員】 先生のお話を受けて、77 ページちょっと開いていただいてよろしいでしょうか。これも3年前なのですが、鶴田ダムに集中的に入ったら、そのときに、例えばダムとインフラがありました、橋とインフラがあったとしまして、どういうお客様にどうやって見せていくのかという整理がないといけないねっていうことでした。そして、こうした観光ですから個人向けと団体向けにわけられますから、ここでまずしっかりターゲットを整理しました。今の団体向けの中の①に、小中学生の教育旅行がありますが、この鶴田ダムはですね、ダムの水を出す部分が四つぐらいあるのですが、そこで元々遊び心があった所長がおられて、ダムレンジャーみたいな色を変えて作っていました。あれは面白いけれども、これを持っている教育旅行で楽しくですね、防災を勉強させてもらえるシナリオを作るということで、いろいろな案をみんなで出しました。ペーパークラフトでダムの模型制作を体験させようとか、ダムレンジャーが操作室で説明を行うなど、他の教育旅行と違うような仕組みというものを考えていかないといけない。これができるとですね、全国でもまた横展開できる余地もあると思うのですが、ここに書かれているように、星空をベースにする等、具体的な活用案が出ていますが、これを実際まわすのは国交省ではないので、民間のDMOを含めた方々にお金を儲けてもらいながらダムを貸して行くというような、地元への貢献はこんなことではないかと思えます。

【河野委員】 そうですね。私が担当している2ヶ所は教育旅行を検討するとなっておりますが、日下川は元々観光地でもなくて観光客も来ないし、レストランもないし、そもそも高付加価値の考え方が難しい箇所、その代わりに水害リスクを身近に抱えて、防災的な側面と生物の観察を合わせる教育学習は元々やっていたという素地がありました。これまでは収益0円だったところを、受け入れのスキルをアップすることで、スモールビジネスから作っていきこうという積極的な意味での教育コンテンツの強化が議論のスタートになっています。もう一つの天ヶ瀬の方は宇治に平等院等の歴史があって、そこに教育旅行の人たちが多く訪れているので、如何に周辺地域へ天ヶ瀬ダムを取り込むかを考えています。ダムを新たに教育に加えることについては、学校の意向とかも関係するため、学校などに丁寧なヒアリングを行うなどしてニーズをきちんと検証した上で商品を作っていくことが必要になります。教育旅行といっても、周辺地域との状況によって考え方が大きく変わるので、そこが難しいところです。

【篠原委員】 当初のターゲットの中でどうやって他と違って楽しく見せられるか、追求をしていくということ、それでないとお金を取れない。今日は観光庁から河南課長、そして玉石室

長もお越しになったので、それぞれの角度で今日のいろいろな議論を聞いていただいて、お話を伺いたいなど。

【観光庁観光地域振興課長】 観光庁で観光地域振興課長をやっております河南でございます。今のお話を聞いて、お客さん目線で物事を考えるのは大切で、その地域にあるものを見せたいというのはわかるんだけど、その前にまず、自分たちのところに来てくれる人、来ようと思っている人は何を聞きたいか、何を見たいのかを見た上で、ターゲットを考えるといい。ターゲットが求めているものは自分の地域の中で何があるのか、ちゃんと考えて勝負をしていく必要がある。その基本として、先程おっしゃっていることがある。そういう次元にまずしっかり作り上げていくのが大事だという点。もう一つは、ここで議論に出てきているのは、単品というか、その目的地になるようなものを作ろうという話であって、それだと残念ながら、観光によって地域づくりをするとか、冒頭挨拶で篠原先生が言われたような地域にも波及していく、観光で収入を得るとか、そういった地域経済にうまく波及していくってところになかなか結びついていかない。そうすると、そういう視点での物事の組み立て方とか、そういう視点を入れていかないと。次の段階に移るには。話を聞いていると、現状は、あるコンテンツ、体験部分の運営者を頑張っている作っていますみたいな。だんだんそれだけじゃ観光というのはうまくいかなくて、観光による地域づくりは、そういうものをいくつかを組み合わせたり、ターゲットに合わせて組み合わせたりすることによって、地域でできるだけ滞在してもらったり、お金を落としてもらったり、そういうふうな形に持っていくところなので、そこへと順番に上げていくことを次考えていかないといけないのかなって思いながら聞いておりました。

【篠原委員】 滞在時間をその地域で延ばしていただくと、宿泊の可能性も出てくるということなので、大体民間委託をするときに協議会を作って、滞在時間を伸ばすためにこういうような工夫を国交省もダムも頑張るけれども、そのダムを活用して宿泊を増やすにはどうしたらいいのか、という議論もやっぱり大事だという話ですよ。

【観光庁観光地域振興課長】 それだけでなく、そこで食事するにしても、やっぱり自分のところのエリアでいかにとってもらえるのか、他の人たちもうまく巻き込んで、そういうふうに滞在してもらおうということをいかに作り上げていけるのか、というのが我々がやっている観光地域づくりって言いますが、これなのかなというふうに思っております。

【清水座長】 その管理者が、一方的に商品を作って管理できる範囲で留まっているのが今ほとんどの話であって、地域でこの観光を上げる側の方が主導して、インフラはその全体のストーリーの中の一つであるというぐらいにしておかないと、先ほどから話題になった波及効果が出てこないし、地域を巻き込めない。今はその管理者の都合でやっているのだから管理者ができる範囲しか出てこないんですけども、例えばダムを開放するにしてもさっき話題になった、

土日ができないとか、土日できないと観光にとっても致命的なわけで、民間でやったときに民間の人がダムを管理するわけにいかないの、そこを導入するかっていうそこが多分最大の問題ではないかなと思って、そこをうまく折り合いをつけないと、インフラツーリズム自体あるところ以上いけないという。

【篠原委員】 今、モデル地区に北海道開発局の管轄で白鳥大橋があるのですが、鍵をしっかりと、安全管理の研修をしながら渡していく、湯西川ダムなんかも有名ですけど、やはりそうしたような安全管理と、民間にどこまで何をやらせるか、ここもやはりそのときのトップの考えもあり、民間もちゃんと責任を取れるかどうかということもありますが、ただ、先行事例としてはあるので、そこはちゃんとモデルを示しながら議論していくのがいいかと思います。

【観光庁観光地域振興課長】 既に事例があるものは、手引きにいれる等、そういう形にしないと。事例があるんだったら、そんなものを考えてみようかなっていうふうにする人も出てくると思うが、そういう情報が入ってないと、発想も出てこないかもしれない、非常にもったいないんですよ。

【河野委員】 事例集は本編の中に考え方の軸として入れることが望ましいでしょう。

【大臣官房公共事業調査室長】 私も観光地域振興課に 6 年ぐらい前にいました。当時、私は直接の担当ではありませんでしたが、観光庁全体としては DMO が重要だという時期でした。そのときは DMO の「M」、マネジメントをする者が必要だよなと。なおかつ、それが既存の観光協会のような、地域行政の延長ではなく、きちんと収益をあげて、自分の組織もそうですが、地域にも効果が裨益する、そういう組織が必要であるため、当時 DMO に力を入れていたのだと思っています。翻ってみて今日のお話を聞いていると、私も土木屋なのですが、やっぱりこれまではインフラツーリズムという、先ほどの資料の土木広報という考え方が少し強いのかなと思っています。その土木広報と地域の方をどう繋ぐかという役割が DMO にある種、期待されているのかなと感じました。当時、そういった繋がりをつくるのは誰か、DMO に期待するのかななどの話を進めていましたが、その繋ぐ役割を担うプレイヤーをまずはっきりさせるということが大事であると思っておりました。あと、収益の話ですが、やはり土木屋だと土木広報の気持ちが強いので、収益はあんまり考えていない、それは先ほど先生が言われた、やっても評価に繋がらないというところなのかもしれません。これは言い過ぎかもしれませんが、そういう収益をあげるところを担う旅行会社などの組織や、収益をあげる組織と行政を繋ぐ DMO などの組織が重要で、収益の観点と繋ぐ組織を今まで以上に頭に入れて取り組んでいくことが必要ではないかということが、今日の議論を聞いて考えたことでございます。以上でございます。

【清水座長】 ありがとうございます。いろいろ意見ができてきたのですが、一旦、ここまでの

話に関わるので、今後の予定のことですかね、こちらをご説明いただきたい。

【観光・地域づくり事業調整官】 それではすみません、いろいろ意見をいただきましたので、39 ページからになります。39 ページの資料につきましては、これまで手引きで整理しております。元々インフラツーリズムの拡大のためにどのようなことを考えるかっていう、土木広報から地域活性化に至るようなこの右の流れですね、そういったもので整理しております。このステップ図だと、中間辺りになるんですが、管理者、自治体がやっていた実施の内容が、最終的には地域と連携した民間事業者等が実施主体になるというところを目指しながら、下に整理していきます通り、各モデル地区でもやっておりますが、まずはその検討①として運営体制の構築、検討②ということで施設の深度化、連携したコンテンツの検討、さらには最終的に検討③ということでインフラツーリズム実践、という形の整理にしております。これがステップ図と、管理者自治体から民間事業者に移る流れで、最終的には実践っていう流れの整理をしております。

これを踏まえまして、40 ページになります。先ほど各モデル地区の進捗をご説明いたしました。それを簡単な表にまとめたものが、この表になります。モデル地区ごとに検討①運営体制の構築、検討②インフラ施設の深度化、コンテンツの検討、さらにはインフラツーリズムの実践が検討③ということになります。表の凡例としましては、二重丸は実施しております内容、役割分担がもう決定してるということでございます。一重丸につきましては検討中ですが、概ね方針決定段階から概ね方針が決定しているというものでございます。三角につきましては、検討はしておりますが方針が未定、もしくは検討の初期段階、というところの三角でございます。そして横棒につきましては検討未着手という凡例になっております。これを見ますと、天ヶ瀬ダム、鶴田ダム、日下川新規放水路につきましては、協議会とそれなりの運営体制というか、打ち合わせ体制はありますが、運営体制が未定でございます。また、来島海峡大橋、鳴子ダム、白鳥大橋、八ッ場ダムにつきましては、モデルツアーを含めた、地域が主体となったツアーが実施されているということで表をまとめております。

次のページ 41 ページでございます。今後の事業全体のスケジュールをまとめております。まずの下段の表になります。今現在各モデル地区の検討を行っておりますが、まず、今年度末を目標に、これまでの取り組み海の中間総括を行います。先ほどご説明した通り、コロナやその災害等も影響ありまして各地区の進捗状況は違います。来年度以降、引き続き支援をする。あとは必要に応じてアドバイスをする地区という形に分けていきたいということで考えています。また併せまして、取り組みのこれまでの評価ですね、総括を踏まえた評価を先ほど篠原先生からも言われましたが、評価をとりあえず考えていくかということも含めて検討していきたいというふうに考えています。上段の方が事業全体の流れでございます。モデル地区の中間総括を含めまして、今後ですね、中間総括を踏まえた今後の取り組みの検討、全国展開の方策ということを考えていますが、そういったものを検討しつつ、さらなる取り組みの展開に発展していければいいなということで考えております。簡単ではありますが、以上です。

【清水座長】 ありがとうございます。いかがでしょう。

【篠原委員】 概ね今の整理でよろしいのではないかというふうに思います。今気づいたのですが、改めて考えるのは、観光庁の方も今この席におられるわけでありまして、ちょうど来年度に向けての予算を拝見しておりますけど、地域支援のメニューもですね、当然あると思うんですよ。看板商品事業を今おやりになってらっしゃるんですが、それについては、1200 件ほど全国で展開が図られています。せっかく今、全体でマニュアルを作り、こうした整理をしていただいておりますので、やはりこうした頑張ろうと思っている地域にそうした情報もしっかりと入れながら、頑張れる組織を作っていく、これがさっき武田さんのおっしゃられたようなところに育てていけるベースになるのではないかと思うので、その辺もぜひですね、繋げていくべきだと思います。

【清水座長】 ありがとうございます。いかがですか。河野さん何かありますか。

【河野委員】 大丈夫です。

【清水座長】 基本的にはそういう仕切りでいいと思うものの、個別の各事業を具体的にどうするのか、そこについては慎重な検討が必要だと思います。今後また議論することとして、とりあえず、関連する話なので骨子の方を説明いただいて、また総合的に議論できれば。説明をお願いします。

【観光事業調整係長】 はい。「インフラツーリズム拡大の手引き」改定の骨子案につきまして事務局の井関の方から説明させていただきます。まず 43 ページでございます。概要になりますが、現在の試行版がインフラツーリズム推進している先行事例からインフラの魅力を引き出す工夫点を取りまとめたものとなっております。課題を解決するための取り組みを「勘所」として整理しておりますが、試行版の課題としましては、手引きの対象者が定まっていないということ、観光そのものへの理解が必要だということ、取り組みの全体的な流れがわかりにくい、といったところがございます。この改訂のポイントとしましては、まず対象者は施設管理者をメインとしつつも、自治体や観光協会にとっても参考資料となるようにすること、また普段観光に携わらない施設管理者向けにツーリズムそのものの説明を追加すること。また、インフラツーリズムの自走化に向けて必要な取り組みをチェックリスト形式で網羅的に記載ということとしております。またモデル地区における取り組みや、全国の取り組み事例のヒアリングを行って、紹介事例を充実させようと思っております。

42 ページになります。試行版と改訂案で比較しておりますが、改訂案については冒頭にツーリズムそのものの説明を追加する予定でございます。また拡大に向けて取り組むべき事項として、六つの項目を示しておりますが、地域によって取り組みの順序が異なることを踏ま

えて、フローではなくチェックリスト形式で記載して、それぞれの取り組み内容につきましては具体的な事例を交えながら整理する予定でございます。

続いて 45 ページが改訂版の目次の案を示しておりますが、次ページ以降で、それぞれの内容を簡単にご説明していきます。

まず 46 ページ、前段でございます。基本的には試行版から踏襲となりますが、手引きの対象者や活用の方向性といったものを意識しながら記載をしていきたいと考えております。

次に 47 ページが第 1 章でございます。まずこちらはインフラツーリズムを取り巻く環境ということで、日本人や訪日外国人の旅行の現状、またインフラツーリズムと相性のよい教育旅行の動向、またインフラツーリズムに対する受容性調査の結果等について記載予定でございます。

続いて 48 ページ第 2 章になります。インフラツーリズム拡大に向けた考え方ということで、1 つ目が、試行版の踏襲となりますが、先ほど 39 ページの土木広報としての見学会から観光資源として磨き上げ、さらには周辺観光資源との連携、こういった流れの説明を記載予定でございます。2 つ目が、インフラツーリズムの拡大に向けて取り組むべき事項として、6 つの項目にしまして、地域の実情に応じて取り組み可能なものから着手する点を記載する予定でございます。

続きまして 49 ページ、第 3 章、先ほどの 6 つの項目につきまして、地域それぞれ具体的な事例を交えながら記載予定でございます。1 つ目がインフラの有する魅力や、置かれた環境の把握、活用方法や周辺資源との連携の可能性を踏まえた全体構想の検討についても記載予定でございます。2 つ目が、協議会の設置や旅行会社との連携規定など、組織作りについて記載予定でございます。3 つ目が、商品造成や価格設定、販路構築としまして、施設管理者でも最低限知っておいた方がよいという内容をまとめて、旅行会社等にとっても参考になるような記載にしたいと考えております。

次のページになります。4 つ目が一般の入場を想定しないインフラ施設におけるツアーの実施体制や環境整備、安全性の確保などについての内容となっております。5 つ目がインフラの魅力が広く伝わるような情報発信についての内容を記載予定でございます。6 つ目が、インバウンド受入に必要な環境整備や情報発信についての内容となります。

最後に 51 ページが、第 4 章と 5 章になります。4 章は事例集ということで、国内外の先行事例の紹介、また 5 章ではその他参考となるような資料をまとめていきたいと考えております。駆け足となりましたが、概要の説明は以上となります。

【清水座長】 ただいまのご説明についてご質問等がありますか。

【河野委員】 先ほどの委員の先生方の話と多分全部繋がってくるのですが、インフラツーリズムを何のためにやるかが現場に浸透していないという現状が先ほど指摘された中で、現状案では手引きの改訂がそもそもマイナーチェンジすぎるというか、指摘された課題に対するソリューションにはなっていない印象があって、ちょっと本気で大改訂した方がいい気がします。そ

れを踏まえて、気になることを目次で申し上げますと、47 ページの最初の、そもそもツーリズムを理解していただくという要素は、必要は必要なんですけど、そこでマクロな観光データの話と、教育旅行を例とするコンテンツづくりのスキルやツールみたいな手法論しか現状のタイトルにはありません。この中身に何が書かれるかにもよるのですが、「そもそも観光がなぜ大事か」を理解できるための情報がここには必要で、マクロの情報では、おそらく観光で何がキーポイントなのかっていうことは、いくら書いてもきっと読み手は理解ができないと思います。決してコロナ禍のせいというわけではなく、旅行とか、消費者の動向やニーズがこの 5 年間の中でもものすごく大きく変わっている中で、インフラツーリズムってというのは、可能性もあるし、期待もされているんだよという、インフラツーリズムにちゃんと引き寄せた書き方をしなければいけません。マクロデータを示すにあたって、インフラツーリズムにちゃんと落とし込んで理解できるようにすることと、定量データだけでは見えてこない、最新の定性的な情報をどうやってちゃんと入れていくかっていうところがポイントになるのかなと思います。

次に、48 から 49 ページのどこか、多分 49 に入るのかと思うんですけども、コンテンツづくりの手法論、ステップしか項目がないので、その前段階として、おそらく 49 ページの全体構想の検討の一番初めぐらいのところで、「ビジネスモデルを考える」っていう話をしないことにはその後の手法論に沿わないんじゃないかなと思っています。作り方の説明だけだと、設計図が予めあって、プラモデルのように作る場合にはできます。一方で、今回は、自分の地域のインフラツーリズムの設計図から自分たち作らなければいけません。自治体の方々とか地域の方々でインフラ施設と一緒にあって、経済波及というゴールに向けてビジネスモデルを考えることが重要で、そのためのいくつかあるやり方の中の一つとしてのツーリズムという手法ですよ、っていう順序で組み立てるのがよいのではと思いました。ビジネスモデルにはいろいろあって、大きく儲かるものではないけど、社会的意義を優先してそういうことによってこれまで連携してなかった事業者さんたちのネットワークができるっていうような、付加効果っていうことを重要視するようなパターンもあるし、先ほど清水さんがおっしゃっていた高単価のツアーみたいに、一発 100 万円で天守閣に泊まるみたいな、そういうもので稼ぐっていう方向性もあります。また、インフラツーリズムに支払う金額は少額だけど、個人向けに滞在時間を地域全体で伸ばすことで、2 時間延びれば 1 食食べるので、地域全体にお金落ちるよっていうビジネススキームを考えることもできます。ビジネスモデルを考えていくことで、初めてターゲットが鮮明に見えてきて、現状で仮説を立てているターゲットで正しいかという検証もできます。そういう順序でものを考えてツアーを設定していただくことができる順序で手引きを記載する必要があります。

あと最後に、50 ページの情報発信のところでも 2 点気になるところがあります。項目として「情報発信」がありますが、この情報発信やコミュニケーションのツールやスタイルは近年大きく変わっていて、コロナ禍の中で非常にそれをまた後押しもされているので、情報発信・コミュニケーションぐらいにした方が本当はより良いのかなという気がします。そのあたりの、「発信だけでは足りないんですよ、発信することが目的ではないんですよ」っていうことが伝わるように、ファンマーケティングの話ですとか、SNS がどうだとか最近の情報というものがあるものがどう取り扱われている

て、そもそもデジタルツールを持ってないことには、あのスタートラインに立てないんですよって
いう点には触れておく必要があると思います。観光に携わっている人でも、年かさの方でご自
身がデジタルツールを駆使していない方は知らない可能性がありますし、民間企業との連携
が弱い地域ではそれらの知見が入りにくいかもしれません。そこをきっちり書かないと、昔なが
らの現地にチラシを置くとか、閲覧数の少ない公式 Web サイトに PDF のチラシが載っているよ
うな、消費者にリーチできない発信になってしまうリスクがあります。

あとこれは書きづらいと思うのですが、情報発信を考えていくにあたって、モデル地域にな
っていない施設についても、琵琶湖疎水のように既に頑張っている事例もありますので、既に
運用が開始されてちゃんとビジネスをしているコンテンツが集積したインフラツーリズムの商業
的ポータルサイトが本来はちゃんとあるべきだと思っています。消費者が国交省のサイトを閲
覧するケースは少なく、消費購買動線に省庁のサイトは基本的に入りません。消費購買動
線に入る、コンテンツが集約されているポータルがあると力を発揮し、それぞれの地域が作る
情報発信ツールと繋がることによって、情報やムーブメントの波及が行われる、という情報設計
が本来は不可欠です。個々の地域だけの情報発信では効果がどうしても薄くなるので、次年
度以降の予算組みの話もあると思いますが、今後、ポータルの存在と地域情報の連携をどう
見据えるかということとセットでこの情報発信の章っていうのを考えていく必要があるかなと思
いました。長くなってすみません、以上です。

【清水座長】 はい。ありがとうございます。それぞれ答えていたら時間がかかるので、続
いてお願いします。

【篠原委員】 まずこれは誰に見せるものなのかというのを確認したいのですが、お考えは
いかがでしょうか。

【観光・地域づくり事業調整官】 基本的には施設管理者側、我々職員側の方が、基本的
に読んで、現場サイドで参考にできるようなものとして見ていただいて、観光を取り巻く皆さん
関係者についてはそんなことで、施設管理者側が見ているものがあるんだなっていうのを参考
程度に見ていただければいいのかなと。

【篠原委員】 そうですか。主眼の対象というのは、国交省の現場の事務所、あるいは地整
のご担当の皆さんにご理解いただく、これが目的だとまず思っていますか。

【観光・地域づくり事業調整官】 はい。

【篠原委員】 そうなってくると、あんまり細かく落とし込みすぎても目的がそれであればちょ
っとボケてしまうので、そこは精査していかなければならないかなと今感じました。それでです

ね、河野委員の指摘の通り、私が冒頭で整理させていただいた発起した当時の目的ですよ。これも例文がないので、何のためにこれをやるかっていうことを書いた方がいいということですよ。それからキーワードといいますか、キーポイントっていうのは、これをやることによって何が変わるのかということです。これ国交省の地整に対する理解だけでなく、今やろうとしている計画が地域振興とどのように関係しているかっていうことをですね、全体のランドデザインするときに、さっき申し上げた、誰のために、なんのために、何が変わっていくのか、ここはやはりしっかりと整理しなきゃならないですね。だからチェックリストじゃないんですけども、その今のようない点でですね、事業を考えるときに頑張るってやるけれども、どのように地域が変わるのか、どのようにインフラツーリズムと防災と繋げられるのか。こうしたことをちゃんと整理するようなフォームにして、考えてもらう、これはやっぱり作るべきでしょうね。それから、なかなかこれ作られた後の活用がなされず作って終わっちゃうってこともあるので、できれば地整さんの方のご担当と、あと意欲的な実際の現場の施設の皆さんには、我々みたい委員が入ってレクチャーしながら、地元の事案をベースにですね、しっかり考えていく、こんなようなことの仕組みを併せて考えるべきではないかと思いました。

【清水座長】 管理者が実際に商品を出荷するまでのプロセス、という観点で考えたときに、この手引きがどういう機能を果たすか。もし管理者の方がメインでお読みになるということであれば、そのプロセスに準拠することでいいですよ。そのときに、現在は導入部分に理念的な部分が全く欠けているので、何か理念的なものを書くにしても管理者が刺さるような書き方にしないといけません。例えば地域の貢献だと言われても何かピンとこないかもしれないので、例えばここで頑張ることによって、あなたの業務が楽になりますというのですかね、いろんな地域の関係者にインフラを応援していただいて、今後の別の事業展開が楽になります、みたいな方がひょっとしたら刺さるかもしれないですよ。

【篠原委員】 民間委託する地域についても今の話と繋がってできると思います。

【清水座長】 ちなみに、地域でインフラを理解していただくために、例えば観光とか地域づくりの中でインフラツーリズムはどのような機能を果たしていくのかという仮説みたいなものがきちんと理解されると、多分自分たちだけでは全然できなくて、どういうところを組んでやらなきゃいけないのか、それは DMO なのか。先ほど河野さんがおっしゃったように、全部がそこを目指さないかもしれない。日下川みたいに、ちょっと残念だがあるレベルで止まってしまう、それでも別の意味で効果があると割り切ることもできるし、鳴子みたいに頑張ればより高いゴールに行けるような素材もあるわけなので。落とすところというのですかね、事業の到達目標みたいなのがいくつかパターンがあって、少なくともあるレベルまではマストとして、地理的条件等もありますし、そのインフラ施設によっても、ここしかできないものと、それからこっち側が目指せるのか、があるかもしれないですよ。例えば主塔ツアーみたいに主塔を見てバーベキューって、確

かに商品としてはあるかもしれないけど、ストーリーとして何か繋がっているわけじゃないのですよね。ですから、ダムのように流域という視点で、そのダムとその下流との関係とか、何か一見機能的に繋がってないのですが、水という道で繋げていくとあるテーマで繋がられる余地がある。インフラ施設の立地場所によって全然話が違うのですが、いずれにしても、どちら側を目指すのかでビジネスモデルが変わるし、誰が主体的にやって、誰と組んでいいかも全部話が変わってくるから、そこら辺を管理者がイメージできるといいと感じました。

【篠原委員】 読み手が国交省の職員の皆さん中心で、一連のご指摘は非常に大事だと思いますから、特化してそっちの方をベースとしてやるべきかなと思います。

【清水座長】 管理者は観光がほぼわからない方が多いということですよ。

【観光・地域づくり事業調整官】 はい。

【清水座長】 なので基礎的な観光の仕組みを理解してほしいのだけど、データとかそういう表面的な話よりもうちょっと深いレベルの定性的なことも重要になるのですね。

【河野委員】 一般的な旅行ニーズ等を整理と書いてありますけど、一般的な旅行のニーズは多分インフラツーリズムという文脈の中ではそれほど役に立たないかもしれません。基本的なデータは必要ですが、一般的な旅行ニーズを網羅することで無駄にページ数が増えるぐらいなら、もう本当に関係あるところの情報だけに絞り込んだ方がいいかもしれません。

【篠原委員】 例えば今まで私も色々携わらせていただいていたよく聞く事例は、すごく話題があって人気なんです、ということ、地整の方から紹介されて現地に入るんですよ。そうすると確かに個性的な係長がいて、一生懸命説明している。楽しいんですよ。これは何人かガイドさんがいるんですかと聞くと 1人でやっています、と。それはちゃんと紙に書いてマニュアルがあり、台本がありますかといったら、いやそれありません、全部私が、となるとですね、2年後には間違いなく話題がなくなるじゃないですか。これが今までの課題の中の一つの事例なんですけど、そうしたことも今まであったよねと。これをやはり民間に委託をしながらノウハウを継続させていくんだということ。これあえて今言いましたけど、これって気がつかない場合もあるんですよ。その辺の視点も大事ですので、ぜひ入れていただきたいと思います。

【清水座長】 鳴子もそういうことが完全に予期されていて。ほぼこれは所長の趣味だろう、という状況で、多分所長ありきの提案なので、所長が代わると話が変わるかもしれないと思い、早い段階で観光公社にお願いしたかったのですね。

【篠原委員】 やっぱり熱い、頑張れる所長さんがいるときに仕組み作っちゃって、そうしたものにちゃんと移行しないと、温度差が変わるとみんな潰れていくという現状ですから。

【清水座長】 インフラツーリズムに限らず、いろいろな「何とかツーリズム」も、全部全く同じ構図ですよ。この手引きについてはもう次に最終案が出てくるということなので、それではちょっと危ういので、今日の議論を参考に中身を精査していただいて、少し早めに、原稿が全部しっかりなくていいので、大体こんな趣旨のことを書きます、という構成案を早めに作って頂いて、メールベースでいいので、阿部先生も含めて我々に見せていただきながら修正していくのがいいですね。最終回にいきなり原案が出てきて「なんだこれ」ということにならないように。

【篠原委員】 最終回に出てくるのは、それはまずい気がします。

【清水座長】 はい。そういうふうにしていただければなって思いますけど、それでよろしいですか。ちょっとお手数ですけども原稿を送っていただいて。

【篠原委員】 ちょっと戻りますが、卒業をしていただく前提で、というさっきのシナリオがありました。さっきの私の発言にもあったように、今取りかかっている各事業ですね、やっぱり漠然としている部分が非常に多いので、これしっかり卒業していただくためには処方箋を、これを我々も頑張りますが、卒業するのただなにか卒業するのではなくて、課題提起をしっかりとですね、やる気があるならその次のチャレンジを応援する体制を、ここはわかるように来年のその卒業式までの工程を考えていただくことが大事で、そこをぜひお願いしたいことを申し上げておきます。

【観光・地域づくり事業調整官】 卒業するとしても、完全な状態で卒業はあり得ないと思っておりますので、その課題を含めた処方箋のようなものを作成し、今後やって行く方向性を含めた提案という形で整理していきたいと思っております。

【清水座長】 卒業生も多様化したいですよ。

【河野委員】 そうなんですよ。なので、新しい人たちが入らないと卒業生も多様化できないので、いろんなタイプがあつていい、という話がありましたが、一番右のフェーズまで行けなくても真ん中のモデルで完成させるパターンが今のモデルでも少ない。必ずしも地域連携をしてツアー化をして、ということが全員に求められるのではなくて、地域に合った色々なゴールがあるよつていうメッセージも入れていきたいですよ。

【篠原委員】 卒業はしていただきまして支援はするのがいいと思いますが、公共事業企画

調整課としましては、来年度以降も予算をお取りなつて、卒業した後にですね、新規の募集ですね、この辺も同時にお考えになるというふうに考えてよろしいでしょうか。

【観光・地域づくり事業調整官】　そこも含めまして今後の全国展開の方策と、さらなる取り組み展開ってところはそういうフェーズかなと思っておりますので、そこはちょっとまたご議論させていただければと思います。

【清水座長】　新しいところにお声掛けをするとしても、お声がけた後に結局予算化されない可能性もあるし、どうですかね。それこそ、観光庁事業として応募していただければと。

【篠原委員】　ぜひ、議事を書いておいてくださいね。

【清水座長】　お約束の時間過ぎています。いかがでしょうか。

【河野委員・篠原委員】　大丈夫です。

【清水座長】　今日は重要なお指摘をたくさんいただきましたので、私だけで捌けるのか疑問なのですが、座長として最終的に私の方で中身を確認させていただいて、公表することになっていただきたいのでよろしいですか。

【河野委員・篠原委員】　はい。

【清水座長】　議事を終えましたので、進行事務局の方をお願いいたします。

【アセットマネジメント企画調整官】　清水座長、円滑に議事進行していただきありがとうございます。また、委員の皆様にも長時間のご議論いただきました。本日の議事録につきましては後日事務局から確認させていただきます。そちらをホームページへ出させていただくということになりますのでよろしく願います。では、以上をもちまして第9回インフラツーリズム有識者懇談会を閉会させていただきます。本日は活発な議論、誠にありがとうございました。